

エフアイNEWS 〈シリーズトコトン73〉

トコトン求める。

CHECK!

次月はこの“あまおう”由来の『乳酸菌』の特集です!

訪問者：代表取締役 塩谷知明

イチゴの王様 あまおう



福岡県を代表する苺の王様「あまおう」。「あかい」「まるい」「おおきい」「うまい」の頭文字をとって名づけられた「あまおう」は、その名前の由来通り、ジューシーな甘味と程よい酸味が絶妙なバランスが特徴です。福岡県は栃木県に次ぐイチゴ生産量全国第2位の産地です。



★久山町

福岡県

福岡県の中央部よりやや西側に位置しており、福岡市に隣接。鮮やかな緑の山々に囲まれ、美しい田園が広がる町です。

〈生産者インタビュー〉

農家にもお客様にもうれしい『高設栽培』

地面付近のイチゴを育て収穫するのはとても大変。重たい苗をたくさん抱えて、腰を折り曲げて広大な畑にイチゴの苗を植えていくのです。そんな悩みを改善するために開発されたのが、土よりも軽い素材を使って、高い位置でイチゴを栽培するこの高設栽培方法。これにより農家の方の収穫作業の負担が大幅に軽減されました。



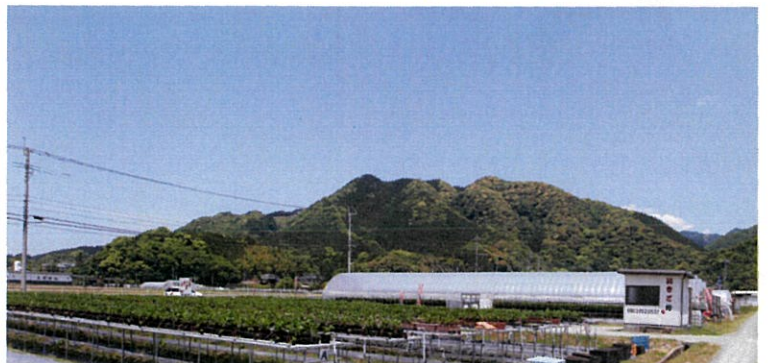
(生産者：やすこうち農園 安河内様)

〈栽培と収穫〉

あまおうは12月から5月いっぱいまでが収穫時期となります。8月くらいになると、苗を2週間ほど冷凍室に入れ、苗に冬と勘違いさせることで、11月初めから実をつけさせるよう調整しています。また、近くの養蜂家にミツバチを持ってきてもらい交配を行っています。



生産が困難な『あまおう』
あまおうはイチゴの中でも最も栽培が難しいと語る生産者。その難しさは、同じイチゴ農家のとちおとめ栽培者が「あまおうの栽培は難しい」と語るほどと言う。管理の仕方によっては、その年のあまおうの大きさやうまさが大きく左右されるため、気が抜けません。そのため、毎年異なる気候、温度等の条件に合わせて、栽培方法も毎年変えるなどの工夫がされています。油断すると全滅してしまうこともあり、年中無休で毎日イチゴと向き合います。



あまおうという品種が開発されたのは約10年前。こちらの農園では8年前からあまおうの生産をスタートし、息子さんと二人三脚で運営しています。

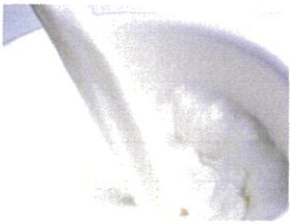


国内プロテイン市場300億円以上！スポーツ市場の主役「プロテイン」

小売チャンネルも変化！

スポーツ専門店からネット通販やドラッグなどの店販へ拡大

日本のプロテイン市場は、世界市場が1兆円を越える中、約300億円程度とまだ小さいですが、ここ数年でプロテインに対する消費者や競技指導者の理解が進んだ結果、アスリートはもとよりスポーツ愛好家、さらにはアスリートを目指すユース世代やジュニア世代の利用も増え始めました。また「筋トレ女子」というキーワードも多く聞かれるようになるなど、雑誌やインターネットではプロテインと筋トレを併用したダイエット法や、しなやかな体作りに関する記事も一般層に影響を与え、年々市場は拡大していています。



●グラスフェッドプロテイン

牧草で育てられた牛の牛乳だけから抽出した乳清で作ったホエイプロテイン。おいしい草を食べて、ストレスの少ない環境で育った牛の牛乳は栄養価にも差がでてくるといわれています。

●発芽玄米プロテイン

発芽玄米プロテイン（ライスプロテイン）は、名前の通り、発芽玄米から作ったプロテイン。玄米はアレルギーの原因になりやすく、動物系のプロテインを摂れない人に好まれています。



●ビープロテイン

エンドウ豆は良質なタンパク質を含みつつ、アレルギーの原因となる物質が含まれていないため、ソイ・ホエイに続く注目のプロテインです。



プロテインの種類も多様化。

これまでの主流であった「ソイ」「ホエイ」「カゼイン」に加え、アレルギーフリーを謳った「ビー（えんどう豆）」や女性に人気の「ヘンプ」など次々と新しい原料が上市されています。

エファイが提案する3つの差別化プロテイン

「発芽玄米」「グラスフェッドホエイ」「濁らないスッキリ透明タイプ」

プロテイン市場が盛り上がりを見せる中、エファイでは3つのプロテインを提案中。素材にこだわった「自然派プロテイン」として、“発芽玄米プロテイン”と“グラスフェッドプロテイン”。飲みやすさや味、見た目にこだわった透明タイプの“クリアプロテイン”。それぞれサンプルをご用意しておりますので、必要の方はお気軽にお問い合わせください（営業部 TEL：058-259-4711）。



エファイ養蜂園

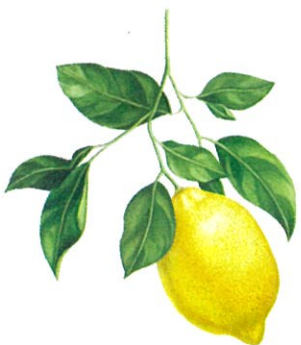
爽やかな香りが特徴「レモンの花」

黄色い果実が特徴的なレモン。果実のイメージしかありませんが、白い花と黄色い種子が印象的な花を咲かせ、見た目にも爽やかです。レモンは、5月～6月に白い花が咲き、その後6ヵ月位経った11月中旬～2月位に果実が収穫できます。



厳しい冬でも少しずつ活動してきたミツバチは、待ち望んでいた暖かい春が到来すると、巣から抜け出し、忙しく蜜を集め始めます。花の豊富な4月～5月の間、新しい働き蜂がどんどん誕生する

ため、働きバチは花粉や蜜を集めて育てます。現在、エファイ農園ではミツバチ達が一生懸命レモンの花の蜜を集めている姿を見ることができます。そして、来月頃にはその数は約2～3倍にも膨れ上がり、やがて王台（女王バチを育てる部屋）が作られ、新女王バチ誕生を迎えるための準備が進みます。



エファイ栄養コラム

テアニンで心地よい眠りを「新茶」

4月下旬から6月初旬まで、その年の一番に採れるお茶を一番茶といいます。

♪夏も近づく八十八夜～♪

知られるように、立春（2月4日ごろ）から数えて八十八日、つまり5月初旬から新茶の茶摘みが行われます。お茶には、取れる時期により四番茶まであり、中でも一番茶にはお茶の成分であるアミノ酸の一種「テアニン」が一番多く含まれています。テアニンは、茶の木、特に緑茶に多く含まれている旨み成分であり、一番茶の中でも若い芽に多く含まれています。テアニンの働きには、リラックス効果、ストレスによる血圧上昇の抑制、質の良い睡眠、更年期障害の軽減などがあります。お茶を飲んでからおおよそ30分くらいでテアニンの効果が出ると言われます。寝る前に、少し新茶を飲んでみると深い質の良い睡眠が期待できそうです。



- 一番茶：4月下旬から5月初旬
- 二番茶：一番茶を摘み終わり約45日程度で収穫
- 三番茶：二番茶の1ヶ月くらい後に収穫
- 四番茶：三番茶のあと9月から10月に収穫